

高岡市女性プラン情報誌

5 号 1999年3月

ありーて

もくじ

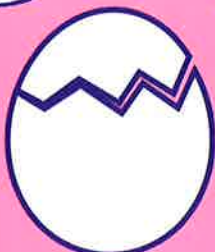
特集 自己実現、新時代

～性差にとらわれない社会の到来！～

セピア色の写真から

『DO』から学ぶ

BOOK紹介



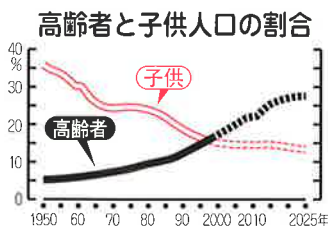
「ありーて」は、自分の力で問題解決していくイギリスの童話の主人公の名前です。「私の未来は私が創る」とありーてはいます。

自己実現、新時代

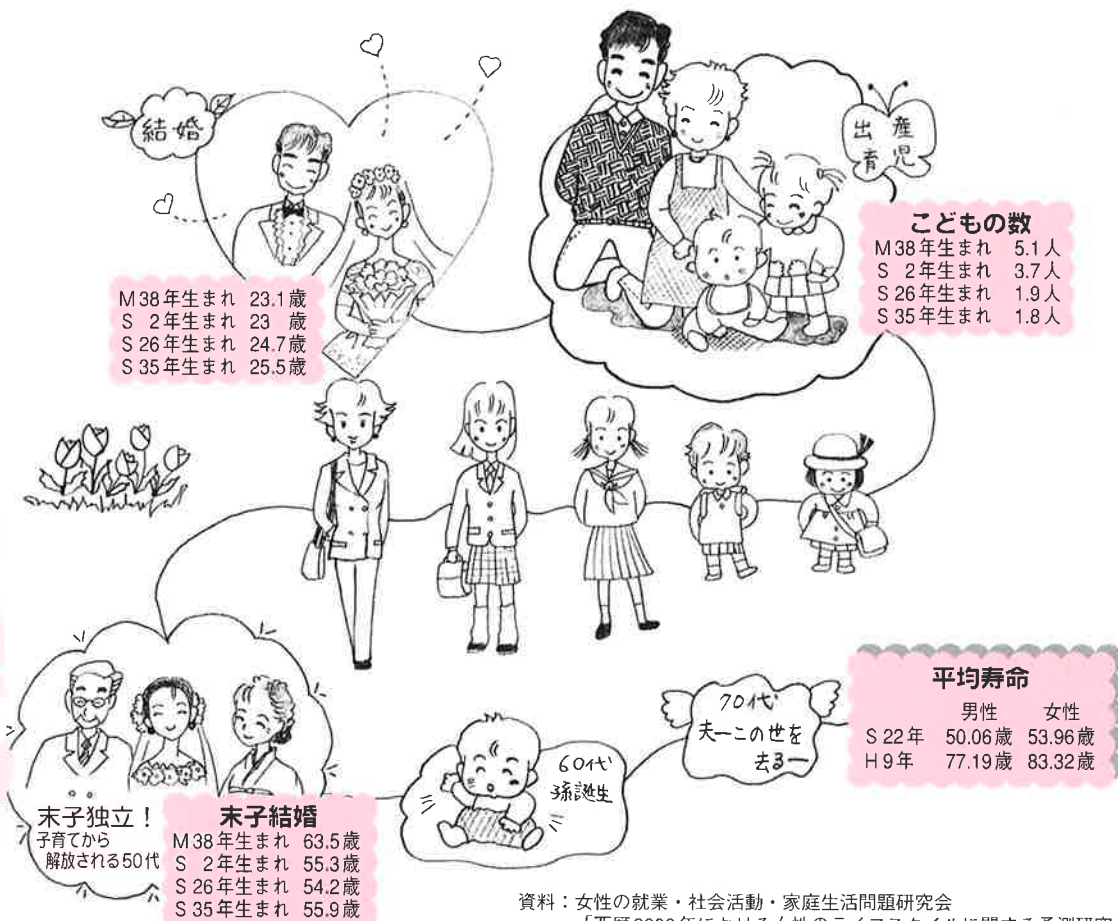
性差にとらわれない
社会の到来！

改正男女雇用機会均等法が施行され、男女の差別が消えつつある平成11年。戦後50年のライフスタイルがくずれ、「社会の中の自分より一人」としての生き方が問われ出してきました。これまでは、とかく男らしさ・女らしさに縛られて(もしくは甘えて)自分を考えがちでしたが、これからは社会、教育そして家庭の中でも、ひとりの人間としてのあり方を自ら問い、望み続ける時代になっていくでしょう。

そこで今号の特集では、新時代に向け、私たちが求めようとしている自己実現とは何であるのかを考えてみることにしました。いわゆる性差にとらわれず活躍している人、女性たちのライフサイクルの変化、そして可能性を開く場所の例などを紹介しています。数例にしか過ぎませんが、これから参考になればと思います。



H9.6.27(金)
—北日本新聞より—



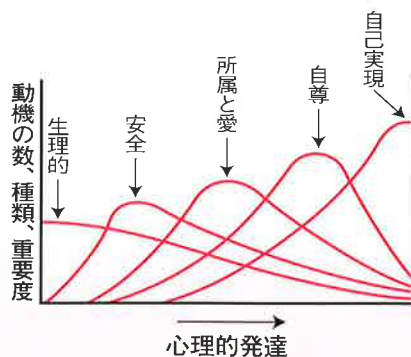
資料：女性の就業・社会活動・家庭生活問題研究会
[西暦2000年における女性のライフスタイルに関する予測研究]
1987年(参考)

女性のライフスタイルの変化

A・H・マズローの欲求階層説 (1962年)

人間の欲求は階層をなしており、低次の欲求からより高次の欲求へと段階を追って発達するものであるという。

生理的・安全・所属と愛・自尊の欲求からより高次の欲求と位置づけられている自己実現は、自分の能力を十分出しきりたい、自分を高めたい、創造的でありたいという欲求である。



あなたのしたいと思った時が、はじめ時



イラスト：宮林ひとみ

「思いたつたらすぐ実行」——チャンスの神に後ろ髪はない——



条谷昌子さん

- * 高岡市城光寺在住
- * 家族：母・夫・2男・猫・犬
- * 高校卒業以来の会社勤めを定年後、富山県職業開発能力センター「エクステリア造園科」を卒業
- * 趣味：スポーツ 釣り 俳句 (俳句歴30年) 生け花
- * 通信教育で「樹医」を目指して勉強中

条谷昌子さんは現在60歳。15万坪もある大きな敷地を持つ化学工場の協力会社で、構内の樹木の手入れなど様々な仕事を行っている。若い頃から、退職後は大好きな花や木を育てる仕事がしたいと夢をあたためていた条谷さんは、42年間勤めた事務職を定年退職直後一昨年の4月から富山県職業開発能力センター「エクステリア造園

科」に通い始め、卒業、現在の職についたという。その行動力、退職リタイアではなく、また一歩前へ進もうとする姿勢は見事だ。とはいえ、すんなりと今の境遇を得たわけではない。退職後は家について欲しいという夫の要望や高齢の母の世話などの問題があった。それを解決するために彼女は知恵とパワーを総動員するわけである。母の体温グラフや気づいた事を書き記し、医師との連絡ノートを作る。妹の助けや訪問看護、デイサービスなどの制度を活用する。夫に対しては、折り合えるところは妥協し「生涯現役」を事後承諾してもらう。

仕事も最初から順調だった訳ではない。10メートル以上もあるヒマラヤ杉の枝打ち、剪定を任せられた風の強い日、上の二枝が怖くてどうしても前へ進めず、あきらめようと思つた。しかし、その日の昼食

時間に食堂の窓から見えるヒマラヤ杉の姿に「やれば出来る。中途半端は絶対ダメ」と再挑戦。とうとうやり終えた時のうれしさは言葉では表せないほどだったという。また、富山市にある開発能力センターに通学していた時は、なんと城光寺から自転車が高岡駅まで通っていた。しかも自身の言葉によればかなりの暴走運転で周囲をあきれさせていたという。富山駅から地鉄電車に乗り換え、車窓の景色をおかずに朝食をとり、近所の人や犬や猫にまで「おはよう」と大きな声で挨拶をする条谷さん。そう、「いまを大切に生きたい」「思い立ったらすぐ実行」を旗印に今日も条谷さんは花を植え枝を整え、さらさらと働いていることだらう。



充実の300科目

放送大学富山学習センター

射水郡小杉町黒河5180
(富山県立大学内)
☎0766(56)9230・9231
☎0766(56)9232
入学時期：4月、10月

学びたいけれど、いまさら学校なんて：とあきらめてはいませんか。放送大学は、年齢を問わず、学ぶ意欲のある人は誰でも入学でき、ビデオやラジオ、ケーブルテレビを通じて在宅で学ぶことができる大学です。学びたい科目も、300科目に渡る幅広い分野から選択でき、定められた単位を修得し卒業が認定されれば、学士(教養)の学位が取得できます。

現在約800人が学んでおり、教養を身に付けたい人、資格取得を目的とする人、自分の仕事に必要な専門的学問を学ぶ人など、目的も様々。年齢層も幅広く、サークルや遠足などの課外活動で、積極的に学生生活を楽しむ人も多いそうです。



誰でも、何かに興味を持てば、自然にそのことを深く知りたと思うはず。学ぶことに、年齢も資格も関係ありません。大切なのは、学ぶ意欲です。もう一度、新しい世界の扉を開いてみませんか。

マウスひとつで、世界が広がる

富山県情報工房

富山市高田527 (情報ビル1階)
☎0764(44)7887 ☎0764(44)7573
開館時間 9時30分～17時
休館日 月曜日(祝日を除く)、
祝日の翌日・年末年始
E-Mail : homeadm@johokobo.
pref. toyama. jp

《パソコンに興味はあるけど、難しいそう》そう思っている人はきっと多いはず。そんなあなたに、便利で楽しいパソコンを教える場所が富山県情報工房です。中に入ると、まず驚くのが体験コーナーのパソコンの豊富さ。家にパソコンがなくても、ここへ来れば、誰でも気軽に触ることがができます。

また、初心者から上級者まで、多彩な講座があり、



インターネットはもちろん、初歩的な文書作成から表計算などいろいろなニーズに 대응してくれる充実ぶりです。そこで、ワード講座に参加している方々に、感想を聞いてみました。

「習ったことを仕事にいかしたい」

25歳女性・ピアノ講師
「パソコンで色々な情報を得、友人やネットワークを広げたい」

?歳男性・昨年定年
「子供が学校で習っているのので、一緒に創作できるようにしたい」

34歳女性・主婦
どんなふうに使うかはあなた次第。気軽に楽しんでみませんか。

好奇心ある人、絶対◎来れ、パソコン初心者!

富山県立志貴野高校 電気科聴講生 制度

高岡市中川1丁目1-20
☎0766(22)3113
在籍 20名(男12女8)
入学時期：4月
授業 毎週木曜日
18時30分～20時30分

電気科と聞くって感じですが、講義内容はパソコン技術の習得です。1年間コンピュータの基礎から操作、色々なソフトの使用を先生の指導により、実際に操作しながら学んでいきます。4月の入学時、殆どパソコン初心者だったという生徒さんたちですが、取材時はつるつるとマウスを操作し、各自の課題に熱中していました。特に強いられた課題がなく、基礎を

教わった後は自由に各自の関心に没頭できるのが魅力。ワープロ・インターネット・表計算と皆目的は様々。教える先生も大変そうですが、皆の成長をアシストできるのを楽しんでいらつしやるふうもあり、

アットホームな雰囲気。そういえば、ご夫婦や親子で受講している方もいるそう。何でもここに来るようになってから、家族の会話も増えてきたとか。年代も幅広く20～50歳代の方が現在受講中で、情報生活を始めるために必要なのは、本人の意志第一なんだというのがここで強く感じられました。

好奇心と目的さえあればためらい御無用。21世紀はすぐそこ。あなたもここで情報化の波乗り始めてみませんか?



こんなことをしています N-Net

落語が大好き。シャンソンが大好き。他の人にも、落語やシャンソンの楽しさを知ってほしいと、自宅で落語会を開き、シャンソンコンサートもいろいろな会場で開きました。落語家や歌手は、楽屋まで行って熱心に頼みOKをもらいました。それが縁でまた新しいネットワークができるのが楽しみです。

めざすは国際人

通じる英語の基礎教室

高岡市城光寺25-7
サンライフ高岡
☎0766(44)7073
月3回 土曜日 午後2時から
受講料 500円/回
定員 15人程度
参加希望者は要連絡

学習は指導者と生徒が会議用円卓を囲んでゆったりとした雰囲気の中で行われる。使用教材はジャパンタイムズの『週刊ST』紙(タブロイド版英字紙)で、日本に住む外国人記者たちの目を通して述べられたオビニオン欄の記事を一人ずつ声を出して読んでいく。この時、発音やイントネーションの矯正を必要に応じて受ける。『抗菌製品』『ゴミ問題』『ポルノ広告チラシ』『国際教育』といった生活者として、関心あるテーマが扱われてきたそうだ。

教室指導者の中島和信さんは「単なる会話としての英語を超えて、国際感覚を身につけて欲しい」と語る。「この年になって学ぶ事が面白くなった。息子の使った参考書を使って家でも勉強を始めた」と話してくれたのは開講当時から参加のHさん。以前は英語が嫌いだったと言うOさんは



「今は覚えるは忘れを繰り返しているが、皆と一緒に学んでいる事が楽しい」と言う。家でも毎日30分は勉強をしているというYさんは「他の人が勉強しているのに刺激される。途中にコーヒーブレイクがあるのも魅力です」と笑顔で話してくれた。

外国語の習得にとりわけ大切な「音読」に重きを置いたユニークな英語教室です。

こんなやり方が... O・Mさん

運動不足でなにか始めたいけど、あんまり難しいスポーツもできないし、空いている時間にお金もあまりかけずに、と考えていた女性たちがサークルを作った。

小学校の体育館を借りて、知り合いのインストラクターを講師に頼み、カギ当番や会計は順番に担当して、手頃な講座が見つからないとき、自分たちで作るという手もあるんじゃない?

私の一言 H・Dさん

唯一、最大の趣味は釣り。定年になったら毎日海見て釣りに行きたいが、生活のため働かなくてはいけない。趣味のサークルとかは苦手だな。特に世の中のためになることはしていない。握り飯入れてきた袋に、釣り場のゴミを拾って帰る事くらいかな。

花木の声が聴こえます

小矢部園芸高校専攻科園芸科

小矢部市西中210
☎0766(67)1802
定員 男女約40名
就業年限 2ヶ年間
入学試験制度 学校へご確認ください
学習形態 週1回の集合学習(登校学習・現場学習)と在宅学習の併修

ここでは、10〜70歳の男女が、仕事上の関心や園芸への興味から学んでいる。

生徒さんの声を聞いてみました。

「定年後、全く未経験の造園会社に入社。勤務しながら通学している」

61歳男性

「植物が好きでよく山へ行く。花木の名前や育て方など、専門的な勉強がしたかった。これからは、庭園めぐりも楽しみたいし。それに、いろいろな人の体験談を聞くことができ、



から」と言われた。「見本なし」が、「自分の持っている本来の力を活かし、可能性を引き出してくれるのではないかと感じた。

自分の人生観・価値観のヒントを得ている」

62歳男性

「庭木の手入れや雪囲いを自分でできるようにならなかった。家族は庭がきれいになったと喜んでいて」

?歳女性

松竹梅の寄植えの授業をみせていただいた。生木のため、松・梅など一本一本姿が違う。木の特性を活かし、受講生の感性と経験で、それぞれに個性のある作品に仕上がった。先生は「見本を作ると、皆同じような作品になる

女性の人生は今や「80年」。ついこの間まで人生50年といわれていたのですから、実に六割増しの時間を生きていくことになりました。経済的にも今の世の中ほど恵まれた時はなかったのではないのでしょうか。時代やライフサイクルがこれほど劇的に変化しているのですから、自分の人生の選択肢をもっと広げてみませんか。昨日と違う小さな一歩を踏み出すことで、新しい自分

に出会えるかもしれません。ここに紹介した例はほんのわずかで、でも、あなたの回りにも自己実現の助けとなる場があるはず。探し出かけてみませんか。



セピア色の写真から

—時代の風を受けて—

釣 繁子さん



を見せ、家族の仕事の傍らで自らの経済観念を養っていったそうです。

戦時色が濃くなってきた17歳のある日、見知らぬ軍服姿の男性(亡夫、松雄さん)が現れ、明日入隊するから、その前に許婚(繁子さん)に逢いにきた、と突然の出来事。実は祖母と相手方の父親の約束だったことが後日判明するのですが、出征していく軍人さんは、当時神様の様な存在。とにもかかわらずその言葉を信用し、その場合は母の勧めで、高岡駅まで見送ることに。(入籍は4年後、終戦による夫の引き上げはそれから3年を経ることになる)

またその頃、全国の婦人会の中に女子青年団を結成。繁子さんは地域代表に任命されます。当時の吉久地区の主な仕事を列挙すると…

- ・戦地への慰問袋、慰問文、千人針の作成。
- ・春秋の農繁期に、婦人会の有志と共に託児所のお手伝い。
- ・傷痍軍人の慰問。
- ・遺家族、留守家族慰安の演芸会の実施、等々。

過酷な時代だっただけに、人をまとめる

という責務にはつらいものがあつたのでは、と勝手に推測してみたところ、返ってきた返事は以外にも力強く、皆、戦争に勝つという一つの目的で一致団結していたので、とても協力的で積極的だった。特に地元の吉久は軍需工場を抱えた御国意識の高い地区であり、活動の中でもお寺の境内で行われていた遺家族、留守家族慰安の演芸会は大好評で、戦中を乗り越える活力につながったそうです。

終戦、そして地域活動へ

昭和20年夏には敗戦という結果を見、婦人会も女子青年団も自然消滅。翌年には、長らく音信不通であつた夫の松雄さんが生還、新しい家庭生活が始まりました。

昭和22年には長女誕生。のち男子二人に恵まれ、子育てに奮闘する日々の中、子供の成長と共に、母親としての社会参加を求められる機会に多忙を極めてゆきます。

社会、経済活動が復興した昭和45年頃、母親たちにとつ

て見逃す事のできない、三・七制は正運動が持ち上がりました。三・七制とは戦後、次世代を担う若者に豊かな教育をという親や社会の願いに反し、当時の県の高校教育は、普通科3対職業科7の比率であつたということ。県民としてまた母



親として、教育に対する認識不足を痛感、地域の人たちと学習会や報告会を重ねる正運動に乗り出すことに。結果、地域での教育問題意識が向上し、普通科・職業科の比率の見直しにもつながることになりました。

以後、繁子さんは主に婦人会役員として、地域活動に関わる機会を数多く持つことになりました。もちろん家族、特に夫の松雄さんの協力あればこそではありませんが、どの話をお聞きしても、先人観をもたない柔軟さでそれぞれの問題の本質を見極め、対策を講じようとする聡明な姿勢に胸をうたれます。また生来の几帳面さで活動記録を詳細に残されています。戦中戦後の資料はそのまま地域の女性史を察することができる財産ともいえ、各資料を求めて遠方から尋ねてくる方も多そうです。

生まれ育った地域を何よりも愛し、常に自らの信念を持つて生き抜いてきた繁子さん。特に女性の立場で主張するのは困難を極めたと思像に難くはないのです。頭の中には常に父親の言葉があつたそうです。「何かをするという事は、一人の力で出来るものではない、皆の力であるものだ」と。私は一緒に歩いてきた人の事は忘れませんですと、優しい笑顔が印象的でした。

今、女性たちが主張する自由、権利の多くが、長い女性史のなかで先達の熱意と真摯な活動からようやく得られたものであることを忘れてはならないでしょう。戦中、戦後、現代と常に女性の視点で活躍してきた、釣 繁子さん(75歳)にお話を伺うことにしました。

戦争と共に歩んだ少女時代

大正13年4月1日、高岡市吉久で不動産と古道具屋を営む父母の間に兄妹四人の末っ子として誕生。両親の愛情を一身に受けて育つたという繁子さん。特に父親の松次郎さんは優しく、大きな声ひとつ聞いた記憶がないそう。13歳の頃には、早くも家業の帳面つけを手伝う才覚

「ローカライズ」を着る

日本人は、流行に敏感だといわれます。今年の流行色はグレーと聞くと、街中の女性たちはグレーの洋服に身を包みます。そのため、例えば赤を着ている個性的な姿の人はとても目立ち、奇異な目ですら見られることがあります。流行には、皆と同じ様な服を着ると、安心感を得られるという要素があるようです。

たしかに現代社会においては個性重視の流れにあります。大学入試の一芸入試もその一つでしょう。しかし、なぜかファッションにおいては、未だに個性を表すことに臆病な人たちも多いようです。大きな原因として、制服の存在が考えられます。制服は、決して日本固有のものではありません。

19世紀のイギリスの家事用人は、お仕着せ、つまりユニフォームを着用していました。これは、雇業者と使用人との階級を明確化し、一目で分らせるためのものでした。つまり、社会的立場をはっきりさせるためのものだったのです。

この思想が、現在の日本の制服にもあてはまるところがあるように感じられます。中学・高校の制

服や会社での制服は、着用する人として人々の社会的立場や所属を規定し、かつ目で確認するためのものだと言えるでしょう。その上、女性はスカート、男性はネクタイにズボンといったジェンダーまでが押し付けられています。私たちは、制服を着ることによって無意識のうちに、自らの立場や性差を何の疑問も感じずに受け入れてしまっていたようです。

だからこそ、私服においても、制服の延長ともいえる、皆と同じ格好をし、集団の立場に身を置くことに安心感を覚えるのでしょうか。

先の見えない現代に光を投げかけるのは、他ならぬ私たちの創造性豊かな個性です。一人ひとりの異なる力です。ファッションは、ただ単に着飾るだけのものではありません。その時代を反映し、個人の創造力を養う最も身近な存在です。制服からの解放は、それほど簡単なことではないのかもしれませんが。

しかし、着ることの意味をもう一度考え直してみませんか。そこから、きっと新たな時代の階段が見えてくるはずです。

こんにちは 女性行政室です

図書、ビデオの貸出

女性(男性)問題や、男女の生き方などについての本やビデオを集め、貸出をしています。

情報が集まっています

県内外の女性センターや市町村が出している女性(男性)問題についての情報誌や、国・県、関係団体などの調査・研究報告などが集まっています。

こういう情報はどこに、など問い合わせや相談をしてください。

女性プランをすすめています

・女性プラン推進市民委員会を年3・4回開き、女性プランをさらにどうすすめていくか、また、どこがネックなのかなどについて委員に意見をいただき、それを具体的に事業に活かしていくというふうにすすめています。

市の審議会や委員会の女性委員の割合は、20.7%(H10.6.1)になりましたが、さらにふやしていく方法や、また、共働きが多いなか、女性も男性も、仕事と家事、子育て、介護などを両立していく際の援助や協力のあり方など、いろいろ話しあわれています。

★今年からの新しい任期の推進市民委員について、7人を一般から募集します。

★女性の弁護士による無料法律相談

毎月1回、原則第4金曜日に行っています。(1回4人まで)1日から予約を受け付けています。内容によっては、他の相談機関なども紹介します。

★講座の開催

年間3回開催の予定ですが、今年は市民の方の企画を募集します。

★学習活動への援助

女性プランや女性(男性)問題をテーマとする学習活動に対して費用の一部を援助します。

★女性プラン情報誌ありーての発行

★印は詳しく『市民と市政』に掲載します。

市役所5階

本屋さんでは買えない本

■ エコライフ 暮らし方は生き方

いわゆる環境関連の本であるが、この本のおもしろいところは、環境問題に取り組んでいる40もの団体が編集委員会に参加してつくられていることである。

衣・食はもちろんのこと家造り、環境教育、農業など、多方面にわたって環境を守るための取り組みが紹介されている。図解も多く、読みやすく、もちろん自然保護の視点できっちりと書かれている。

副題の「暮らし方は生き方」という言葉を真剣に考えてみてもいい頃なのではないか。

連絡先 〒920-3103 金沢市湖陽2丁目64 (三国方)
石川環境ネットワーク
☎076 (258)2464



■ ぼけのお年寄りをかかえたら

ぼけ老人をかかえる家族の会富山県支部が社会福祉・医療事業団の助成金で作成した家族介護の手引きである。ぼけ(痴呆)症状の解説や在宅介護のポイント、いろいろなぼけ特有の行動への対処法、行政のサービス、病院、公民館の各種施設、などが具体的に詳しく紹介されている。そして、介護する人の精神面のケアを大きく取り上げているのは、実際に体験した人たちが作っているからだろう。だれか一人が大きな負担を引き受け、生活や夢を犠牲にし、「愛情」という言葉に縛られた介護では誰も救われないと訴え掛けている。

連絡先 〒930-0093 富山市内幸町3-23 菅谷ビル4階
ぼけ老人をかかえる家族の会 富山県支部
☎0764(41)0541

今回は各地で活動している民間のグループ(NGO)が作った本を紹介します。どれも書店の店頭にはありませんが、連絡先へ申し出れば実費で送ってもらえます。

■ 「夫・恋人(パートナー)からの暴力について」

大阪府堺市で活動しているフェミニストカウンセリング堺が大阪府ジャンプ活動助成事業に応募し「家庭内における夫などからの暴力の実態調査」を行った調査報告書。

背筋が寒くなるような暴力の実例が報告されているばかりでなく、暴力を支える構造や暴力をふるっている男性の分析、問題解決へ向けて、相談窓口や各種施設の紹介とその問題点にまで触れて実にきめ細かな調査がなされている。過去に暴力を経験したことがある女性たちから渦中にある女性へのメッセージに胸が熱くなった。この問題に悩んでいるあなたにぜひ読んでもらいたい冊子です。

連絡先 〒590-0077 堺市中区瓦町2-3-12
パートナー坂本第2ビル4階
フェミニストカウンセリング堺
☎0722(24)0663
☎0722(24)0979



この情報誌に対する
ご意見・ご感想を
お待ちしております。



「思いついたらすぐ実行」を自分のものにできるかが大きな分かれ目だなとは、いつも思っています。ありがとうございます。

春ですね。出会いや別れが繰り返られる季節ですね。いつもこの季節になると、なにかいいことありそうで、ちょっとワクワクしてきます。さて、今年の統一地方選挙、何人の女性が当選するのでしょうか。

大石真知子

岩城 英子

編集後記

発行/高岡市企画調整部女性行政室
〒933-8601 高岡市広小路7-50
電話/0766-20-1262 FAX/0766-20-1661